

# manabaを活用した中級文法クラスの実践報告

— 運用力向上を目指した文法クラスの実践を通して —

許 明子      田中 裕祐      陳 一吟  
中山 健一      古川 雅子      三木 杏子

## 要 旨

本研究では、日本語補講コース中上級文法クラスにおいて、教室学習と平行して活用したmanabaの運用方法や学習者の利用状況について報告し、manabaの自由作文から見えた中上級レベルにおける文法学習の問題点について分析し、考察を行う。

中上級文法クラスを履修した学習者の多くがmanabaを利用しており、コース修了時に実施したアンケートでは日本語力を高めるために役に立ったという回答が多かった。この結果からeラーニングの活用は教室学習を支援するために有効な手段であったといえる。また、manaba上では学習者と教師との個別的なインタラクションが可能であり、教室では十分に説明でなかった学習者個々人の問題についてフォローすることができ、文法学習のモチベーションの維持や、向上心にもつながっていたことが分かった。

【キーワード】 中級文法 eラーニング manaba

## A Report on Intermediate Grammar Classes Utilizing manaba : an examination of the practice of grammar class with the aim of improving proficiency

HEO Myeongja, TANAKA Yusuke, CHEN Yiyin,  
NAKAYAMA Kenichi, FURUKAWA Masako, MIKI Kyoko

【Abstract】 This is a report on the use method of manaba in parallel with classroom and the usage by the learner. In this paper, we analyze free composition of manaba and consider problems of grammar learning in the intermediate/advanced level.

Many learners used manaba, and in the questionnaire they said it was very useful to enhance Japanese language learning. By this, it can be said that the use of e-learning is an effective means to support classroom learning. In addition, learner and teacher can interact discretely on manaba, so it is possible to follow up with individual learners about things which could not explained in for class. Also, manaba use led to motivation for learning grammar.

【Keywords】 intermediate level grammar, e-learning, manaba

## 1. はじめに

本研究は筑波大学留学生センター日本語補講コース中級文法クラスに取り入れたeラーニングシステムmanabaの利用と中級文法クラスの実践に関する報告である。

筑波大学留学生センターの日本語補講コースの中級文法クラスでは、実際に使える実用的な文法項目の学習、運用力の向上、日本語によるコミュニケーション能力の向上をコース目標として設定し、3つのレベルにおいて9クラスのチーム・ティーチングを行ってきた。

中級文法クラスでは2013年度まで教室学習と平行してMoodleを利用してeラーニングによる学習支援を行ってきた。文法クラスにおけるMoodleの運用および有効性については鈴木ほか(2012)に報告されているが、多様なニーズを持ち、多様な学習環境におかれていた学習者にとってeラーニングによる学習支援は有効であることが指摘されている。

2014年度より筑波大学のeラーニングシステムがMoodleからmanabaに移行することになり、中級文法クラスにおいてもmanabaを取り入れてeラーニングによる支援を行った。本稿では、中級文法クラスにおけるmanabaの活用法について報告し、学習者のアンケートの分析を通してmanabaの有効性について検討する。また、manabaにおける自由作文から見えてきた中級レベル学習者の文法学習の問題点について分析し、考察を行う。

## 2. 中上級文法クラスについて

筑波大学留学生センター補講コースの中級レベルは受講者数が多く、クラス内の日本語力の差が大きいうえに、学習者のニーズが多様化している。中級レベルの特徴を把握し、それに対応した文法クラスを運営するため、今まで様々な試みを行ってきたが、中級レベルの学習者観に関する分析は鶴町・許(2008)、中級文法クラスの多人数クラスの運営については許・鶴町(2009)に詳細が報告されている。また、学生のニーズ調査に基づいた運用力の向上を目指した文法クラスの運営および教材開発については許ほか(2013)、宮崎ほか(2012)、鈴木ほか(2012)に詳しく報告されている。運用力の向上を目指した中級文法クラスの運営については学習者から高い支持を得ており、授業評価アンケートの結果を見ると8割以上の学生が授業内容に満足していると回答している(鈴木ほか2012:160)。

以上の実績を踏まえ、本年度も運用力を向上するための実践的な文法の学習を目指したコース運営を行ったが、本稿ではmanabaを活用方法と有効性を中心に報告する。2.1でmanabaの活用方法について紹介し、2.2でmanabaの活用について学期末にmanaba上で実施したアンケート調査について報告する。

### 2.1 manabaの利用法

manabaは教室学習と並行して運用したが、予習と復習のための練習問題をアップし学生がアクセスできるようにした。manabaの練習問題の結果は最終評価には含まず、自己

モニタリングに活用するための活動として位置づけた。manabaの「小テスト」の中に、選択式練習問題の「ドリル」(図1)と文完成練習問題の「手動採点」(図2)の2種類の練習問題を設けた。ドリルの問題は2択問題、3択問題、4択問題の自動採点方式で回答後すぐに正解が確認できる。手動採点の文完成問題は、学生は授業で学んだ文型を使って前件、もしくは後件を完成し提出する。その作文を教師が採点后添削し、誤用についてはコメント欄に間違っている箇所や理由、修正のポイントやヒントを書き込むような形式である。

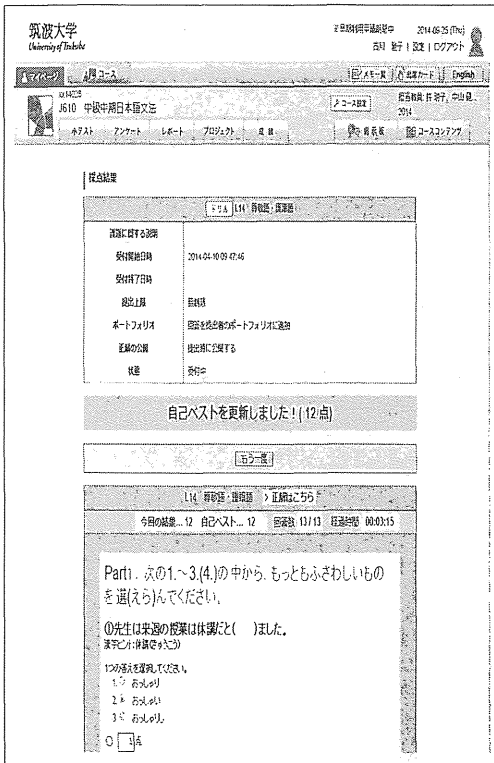


図1 J610第14課選択式問題

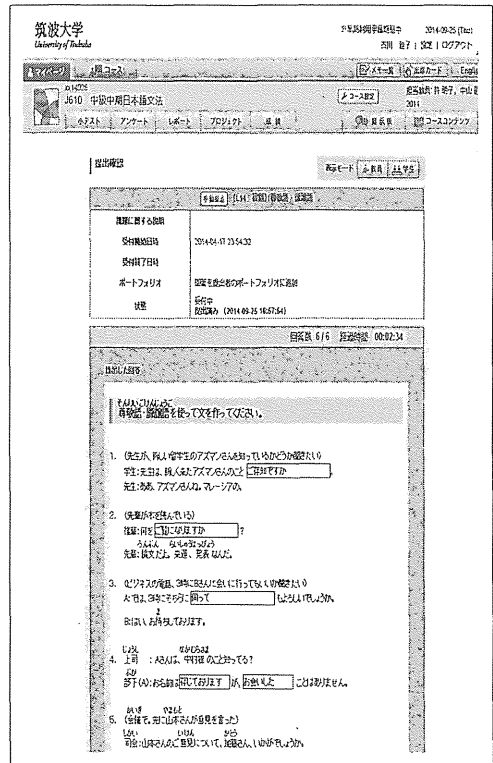


図2 J610第14課文完成問題

図1の選択問題のねらいは、文法の基本的な意味や類似表現の使い分け、用法などの定着を確実なものとするところである。そのため、選択問題では、主教材の『レベルアップ日本語文法中級』の選択問題の類似問題を出題した。選択問題は自動採点になっており、学習者は回答後に正誤を確認することができることから自らの弱点を把握した上で授業に挑むことができたと考えられる。また、選択問題は何度も繰り返し解くことができるため、間違えた問題を何度もやり直して弱点の克服に努める学習者もいた。教師は選択問題の結果を見て、間違いの多い問題などを把握したうえで授業の準備を行うことができた。

図2の復習のための文作り問題のねらいは、場面に応じた文法運用力、産出能力を向上させることである。文作り問題の内容は、『レベルアップ日本語文法』を参考にして、各文法項目ごとに重要なポイントを問う問題を作成した。例えば、J610のL15「尊敬表現・謙譲表現・丁寧表現」の課では、「尊敬表現」「謙譲表現」「相手に勧める表現」「目上の人

の動作の確認」の4つのポイントを設定し、それぞれについて以下のような問題を作成した。

**【尊敬表現】**

- ・ (講演会で、司会者が講師の清水先生を紹介する)

司会：清水先生は、東京大学で物理学を\_\_\_\_\_。

- ・ (李さんが車を買った)

後輩：どんな車を\_\_\_\_\_。

先輩 (李)：トヨタのプリウスだよ。

**【謙譲表現】**

- ・ (渡辺さんは今日のミーティングを欠席した)

佐藤：今日のミーティングで決まったことは、私から渡辺さん\_\_\_\_\_。

**【相手に勧める表現】**

- ・ (銀行の窓口で)

客：すみません。新しく口座を開きたいんですが。

店員：口座ですね。かしこまりました。すぐに担当者がまいりますので少々\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_。

**【目上の人**

- ・ (1週間前に提出したレポートを先生が読んだか聞きたい)

学生：先生、先日本日お渡ししたレポートですが、\_\_\_\_\_。

文作り問題の学習者の回答に対しては、manabaのコメント機能を利用してフィードバックを行った。コメント機能は学習者も使用することができたので、修正した作文を提出したり質問をしたりする学習者もいた。

## 2.2 manabaの利用状況

2014年度春学期終了時にmanabaの利用状況を把握し、manaba利用に対する受講生の意識・意見を聞くことを目的として、受講生を対象にアンケートを実施した(資料1)<sup>1</sup>。アンケートの質問項目は以下のとおりである。

- ・ manabaを利用したかどうか
- ・ manabaは日本語力向上に役立ったかどうか、およびその理由
- ・ 教員からのコメントについて、読んだかどうか／読んで理解できたかどうか／理解できないときどうしたか、(読まない人に対し) 読まない理由
- ・ 「文完成問題」で誤答に対し教員から「ヒント」が与えられたとき、どうしたか
- ・ (manabaを利用していない人に対し) 利用していない理由
- ・ manabaに対する意見 (自由記述)

中級レベルの履修者103名のうち、回答が得られたのは71名で、回収率は68.9%となった。回答者のうち、manabaを「やった」と「ときどきやった」は69名で、受講者全体の約7割が利用していたことが分かった(図3)<sup>2</sup>。レベル別の利用率を見ると、中級前期「J500・J600」と中級後期「J700」との間に少し差が見られた。「ときどきやった」の数はJ500で6人(32%)、J600で7人(25%)であったのに対し、J700では回答者の全員が「やった」と答えた。また役に立ったかについて、予習の問題にはほとんど差がなかったものの、文完成問題・教師からのコメントには差があり、J500、J600では「役に立たなかった」「あまり役に立たなかった」が少数いるが、J700ではほぼ全員が「役に立った」と回答した<sup>3</sup>。このことから、日本語力が高いレベルではほぼ全員がmanabaをうまく活用していたのに対し、低いレベルでは少数ながらmanabaをうまく活用できない学生がいたことが分かる。他方、manabaをほとんどやらなかった学生は、その理由として忙しさを挙げた学生も数人見られた。

また、manabaでの予習・復習をやったと答えた学生に日本語力向上に役立ったか、およびその理由について質問したところ、「役に立った」が45人で62.5%、「まあまあ役に立った」が17人で23.6%を占めており、8割以上の学生が役に立ったと回答している(図4)。以上の結果をグラフで示すと以下の通りである。

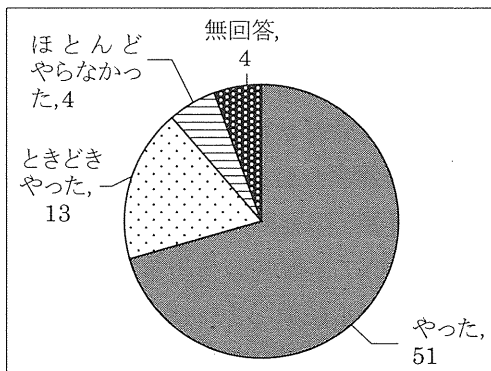


図3 manabaを利用したかどうか

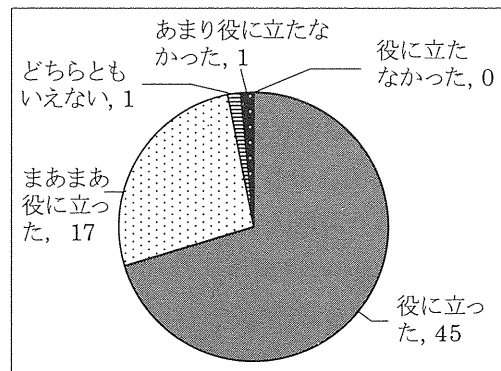


図4 manabaが役に立ったかどうか

文完成問題に対する教師の添削とコメントについて、「役に立った」が51人、「まあまあ役に立った」が8人で、8割以上を占めており、教師のコメントの内容が理解できたという回答が最も多かった。一方、教師のコメントの内容が「理解できる時も、理解できない時もあった」という回答も数名いた。教師のコメントの内容について「理解できない時、どうしたか」に関する質問に対して、「manabaで先生に質問した」が8人、「授業で質問した」が11人で、教室学習を補うツールとして有効に利用できたことが分かる。しかし、「そのまま何もしなかった」という回答も9人から出ており、manabaを十分に活用できなかった学生も数人いたことが分かった。学生の産出された文や誤用から必要に応じて、教師からフォローアップしていく必要があるといえる。

教師からのコメントを読まなかった人に対して理由を尋ねたところ、忙しさを挙げている人が6人で、コメントの日本語が理解できなかったという人も1人いた。

教師からのコメントが正解ではなくヒントを与えたときにどうしたかに関する質問には、「もう一度考えて直した文をコメントで返した」が15人、「直し方が分からなくてコメントが返せなかった」が9人、「コメントの返し方がわからなくて書かなかった」が18人、「何もしなかった」が10人であった。中級レベルに達していても間違いの原因や直し方が分からない学生が多数いると考えられる。教師のコメントの内容が理解できなくても何もしなかった、もしくは正解が分からなくても何もしなかったという回答が数人ずつ出ていることから、さらにきめ細かなケアやフォローアップが必要であることが分かる。

### 3. manabaから見える中級レベルの文法の問題

教室で学習した文法項目であっても、授業後に応用問題として文完成練習をさせると間違いが見受けられるケースが多い。誤用は語彙の選択ミスの場合もあれば、文法の理解が不十分であったり、文脈が理解できず不適切な表現を使ったり、多種多様な誤用例が見られる。中級レベルの特徴としては学習者個人の日本語力の差が大きく、学習環境の背景の違い等、様々な問題が存在しているが(許・鶴町2009)、教室学習では気づかなかった問題点がmanabaの文完成問題に表れることも多かった。学習者の問題点を把握し、有効な教授法を検討するうえで、学生の作文に見られる誤用例から貴重な知見が得られる。市川(2010)は学習者の誤用例や原因について分析し、有効な指導法を提案しており、教育現場に応用できる多く知見を提供している。しかし、筆者ら自身が担当している教育現場から得られた誤用分析の結果は今後の教育の改善に重要な知見を与えてくれる。そこで、本章ではmanabaの自由作文から見えた学生の問題について、解答の分析を通して考察を行う。

### 3.1 中級前期J510の場合

J510中級前期レベルの学生の問題点として、「語彙不足の回避」「名詞修飾節」「原因・理由の「て形」」「従属節のテンス・マスベクト」の4点が挙げられる。以下ではそれぞれのmanabaにおける誤用例を挙げながら説明していく。

#### ①語彙不足の回避

〈誤用例〉

1. 高い気温 はこれからも 続いて行く と思います。 [L7 文完成問題]
2. 私は甘いものが苦手なので、コーヒーに砂糖をかけ、しない (→いれない) で飲みます。 [L9 文完成問題]
3. A: 早くケーキ焼けないかな。  
B: あ、いい匂いが出てくる (→する) よ。もうすぐできるんじゃないかな。 [L7 文完成問題]

中級レベルの学習者に限らず、語彙不足は課題となることの1つである。今回J510の中級前期レベルでは、上記のように語彙の問題を回避した回答が見られた。例1の「高い気温」の意味は、「地球温暖化」や「今年の夏の暑さ」などいくつか考えられるが、いずれの場合でも「地球温暖化」などの語彙がうまく思い浮かばなかったために産出された文だと考えられる。文法的な間違いとは言えないが、中級レベルの文として考えるとやはり違和感があるのではないだろうか。「地球温暖化」は日常生活でも接する機会が多い語彙であり、授業でも取り上げられているが、産出できるまでには定着していないことがうかがえる。同じように、例2の「砂糖を入れないで」も、「入れる」の代わりに「かける」を代用していると考えられる。

また、例3「いい匂いが出てくる」は自動詞「する」が身につけていないために生じた誤用だと考えられる。実際に学生からは、「勉強をする」「テニスをする」のように、「Nをする」という他動詞の「する」は理解し使用できるが、「する」はヲ格とともに使うものだという理解があり、「匂いがする」「音がする」のような自動詞の「する」の使い方は知らなかった、という意見が聞かれた。自動詞の「する」についても、教師が意識的に提示していくことが必要であると考えられる。

これらの語彙的な誤用は、違和感はあるものの意味は通じる文であり、このような語彙不足を回避する手段は、コミュニケーションの上ではストラテジーの一つとして大切な力である。しかしながら、中級以降に進んでいくためにはより自然な語彙を文脈に適した形で使用することが不可欠な要素であろう。

## ②名詞修飾節

〈誤用例〉

4. きのうマイケルさんが図書館に入った／散歩する／駅前で友人に会った／遅刻した／彼女とデートをすること (→の) を見た。 【L4 文完成問題】
5. ヤンさんはまじめだが、ときどき お茶目な (→お茶目で、いつも人を笑わせている) ／つまらない (→つまらないことをする) ／面白い (→面白いことをする) ことがある。 【L4 文完成問題】

manabaの文完成問題では名詞修飾節を形成する際の誤用が数多く現れた。その中でも特に形式名詞「の」・「こと」・「もの」の使い分けにおける誤用および名詞節の定義と形式に対する理解の不十分による誤用が目立っていた。「見る」のような感覚動詞の場合は「こと」ではなく「の」を使うべきだが、「こと」を使って名詞節を形成した学習者が多く見られた。この点について、市川(2010)では、「こと」と「の」の混用が圧倒的に多く存在すると指摘されている。形式名詞を正しく使い分けるためには、「ことにする」「～のは～だ」など固定化した文型を覚えるのみならず、主節述語との関連を覚え、繰り返しの練習が必要だと考えられる。

例5では、「ことがある」の前は本来動詞の動作を表す動詞の辞書形かナイ形を使うべきところだが、「お茶目な」「つまらない」といったナ形容詞やイ形容詞を使用する学習者が何人もいた。前文のナ形容詞「まじめ」に影響されての誤用だと推測できるが、形式名詞としての「こと」と普通名詞としての「こと」の区別がつかなかったために引き起こされた誤用とも考えられる。「～ことがある」については、「明日もきっと楽しいことがある」のように普通名詞として働く「こと」と、「ヤンさんは\_\_ことがある」のように形式名詞として働く「こと」がある。この例から、学生が「形式名詞」の定義や形式に対する理解がまだ不十分であることが分かり、指導する際、学習者に形式名詞と普通名詞の意味および構文上の働きの区別をきちんと理解させる必要性がうかがわれる。

## ③原因・理由の「て形」

〈誤用例〉

6. きのうは電車がうごかなくて歩いてきました／自転車で学校に行きました (→大変でした／学校に遅れてしまった)。 【L9 文完成問題】
7. もうしわけありませんが、今日は用事があって→ (あるので)、お先に失礼いたします。 【L5 ドリル】



「XでY」ではXが原因でYが結果や状態になったことを表す際、「意志を表す表現は使えない」(許・宮崎2013:40)と教科書で説明されているが、練習問題では意志表現を使ってしまう学生が数多く見られた。「て」形には他にも継起などたくさんの意味があるが、原因・理由を表す時は意志表現が使えないため、学生にとって混乱しやすいポイントであろう。また、ある表現が意志表現になるかどうかという意志表現に対する理解が不十分であることも原因として考えられる。

意志表現は上級レベルに達しても引き起こされる誤用であり、今回の調査対象であったJ710中級後期レベルでも同様な間違いが見られた(3.3参照)。意志表現はコントロール性の有無にかかわる表現であり、話者の出来事の捉え方に大きな違いが生じる。コントロール性の有無による意志表現の使い方については学生の作文の分析を通して丁寧に説明し、フォローアップする必要がある。

#### ④従属節のテンス・アスペクト

〈誤用例〉

- |  |             |
|--|-------------|
| 8. 昨日マイケルさんが <u>デートした</u> →(デートしている)/コンビニで <u>買い物する</u> →(買い物している)のを見た。  | 【L4 文完成問題】  |
| 9. ヤンさんはまじめだが、ときどき <u>まちがえた</u> →(まちがえる)/ <u>失敗している</u> →(失敗する)/ <u>さぼっている</u> →(さぼる)/ <u>ぼんやりした</u> →(ぼんやりする)ことがある。 | 【L4 文完成問題】  |
| 10. 毎日 <u>運動した</u> (→運動している)/ <u>スポーツする</u> (→している)のに、なかなかやせない。  | 【L12 文完成問題】 |
| 11. 太郎の友だち：もしもし、山田ですが、太郎くんはいらっしゃいますか。<br>太郎の母：ごめんなさい。太郎は <u>たった今出かけている</u> → <u>出かけた</u> ところなの。                      | 【L12 ドリル】   |
| 12. A：佐藤さん、この <u>間貸した</u> 本、 <u>返してくれる</u> ？<br>佐藤：あ！ごめん。 <u>持ってきた</u> /返した/ <u>読んできた</u> (→持ってくる)のを忘わすれちゃった。明日でもいい？ | 【L12 ドリル】   |

今回のmanaba練習問題では、テンス・アスペクトに関する誤用が最も多かった。最後の12課の内容でもあるが、その前の他の課ですでに誤用が所々に見られ、その中で特に従属節におけるテンス・アスペクトの誤用が多かった。例えば、例8の従属節では、過去の出来事であっても主節述語の「見る」と同時に動作が行われていることを表さなければならず、同時=持続性<sup>3</sup>を表す「ている」形を使うべきだった。しかし、主節のテンスと混同し、過去=ひとまとまり性を表す「た」形の使用や同時=ひとまとまり性を表す「る」

形の使用が多く見られた。同様に例12も主節述語「忘れる」という動詞の意味から、「る」形を使うべきところに主節に影響されて「た」形を使ってしまう例である。

また、例11のように瞬間動詞<sup>6</sup>の「出かける」を間違えて継続動詞として捉え、「ている」形を使って「ところ」に接続してしまう誤用もあった。この例はほぼ全員に間違いが見られており、動詞の分類に対する理解が不十分なために引き起こされた誤用であると考えられる。

### 3.2 中級前期J610の場合

J610の学生に多く見られた問題点として、ここでは「敬語・待遇表現」「授受表現・ヴォイス」「のだ」「テンス・アスペクト」「自動詞・他動詞」の5点を取り上げる。

#### ①敬語・待遇表現

〈誤用例〉

- |   |             |
|---|-------------|
| 1. A: 素敵なネクタイですね。<br>B: はい。これは、父が <u>くださった (→くれた)</u> ネクタイなんです。   | 【L13 文完成問題】 |
| 2. 後輩: 何を <u>拝見していますか (→ご覧になっているんですか)</u> ?<br>先輩: 論文だよ。来週、発表なんだ。   | 【L14 文完成問題】 |
| 3. 後輩: 何を <u>お目にかけられていますか (→ご覧になっているんですか)</u> ?<br>先輩: 論文だよ。来週、発表なんだ。   | 【L14 文完成問題】 |
| 4. (講演会で、司会者が講師の清水先生を紹介する)<br>司会: 清水先生は、東京大学で物理学を <u>ご研究になります／お教えなさっています／教えになっています (→お教えになっています／ご研究なさっています)</u> 。 | 【L15 文完成問題】 |
| 5. (1週間前に提出したレポートを先生が読んだか聞きたい)<br>学生: 先生、先日お渡ししたレポートですが、 <u>ご覧になりましたか／お読みになりましたか (→読んでいただけましたでしょうか)</u> 。         | 【L15 文完成問題】 |

敬語・待遇表現については、様々なタイプの誤用が見られた。例1は家族に対して敬語を使用した誤用、例2は尊敬語・謙譲語の混用、例3は異なる動詞の敬語を使用した誤用、例4は規則的な敬語の作り方に関する誤用、例5は目上の人に依頼した動作を確認する際に恩恵表現を使わないという誤用である。

以上の誤用を見ると、中級レベルの学習者にとっての敬語・待遇表現の難しさは、まず正しい形の敬語を作る点にあると言える。特殊な形の敬語については、尊敬語と謙譲語の区別や、どの敬語がどの動詞に対応するかを覚えることに困難がある。一方、規則的な形の敬語については、グループ別の尊敬表現の作り方の違いや「お／ご」をつけることに困

難がある。また、例1と例5の誤用からは、敬語を適切に運用することの難しさがうかがえる。これらの誤用例は敬語の形ではなく、文脈を考えると不適切な表現になるものである。この点を改善するためには、「敬語」が間違いなく使われていても適切な表現になるわけではない（蒲谷ほか1998）という点を学習者に理解させた上で、ウチ・ソトの概念や恩恵表現の運用上の重要性を認識させる必要があると言える。

## ②授受表現・ヴォイス

### 〈誤用例〉

- |  |
|--|
| 6. 来日したばかりのとき、チューターがいろいろな手続きを <u>くださった／くれた</u> (→ <u>してくれた</u> ) のでとても助かった。 【L13 文完成問題】                |
| 7. 先週の日曜日、家に遊びに来た友達に私の国の料理を <u>あげた／あげました／さしあげました</u> (→作ってあげた)。 【L13 文完成問題】                            |
| 8. 先輩に日本語の作文を <u>直され／チェックされ／書き直され</u> (→直してもらっ／チェックしてもらっ／書き直してもらっ) て、とても勉強になった。 【L21 文完成問題】            |
| 9. 本田：昨日サッカーの試合だったんだけど、相手チームの選手に怪我を <u>させた／させられた</u> (→させちゃった／させてしまった)。本当に申し訳ないことをしちゃったな…。 【L22 文完成問題】 |

行為の授受を使用すべきところを物の授受の形を使ってしまう誤用が多く見られた(例6、7)。「手続きをする」「料理を作る」のような「NをV」の形をとる表現について、本来は「NをVて<授受動詞>」という形を用いるべきところだが、「Nを<授受動詞>」という形を使用する学習者が多かった。市川(2010)では、類似の誤用として「親切にくれた(→親切にしてくれた)」のように「ナ形容詞+V」の形をとる表現が「ナ形容詞+<授受動詞>」となったり、「案内もらって(→案内してもらって)」のようにスル動詞が「N+<授受動詞>」となったりする例が紹介されている。指導の際には、これらの誤用も含めて、もとの動詞を授受動詞に変えるのではなく、動詞に授受動詞を接続させるという点を強調する必要がある。

例8は受身形と授受表現「てもらう」の使い分けを問う問題である。「とても勉強になった」という文脈が示されているので、迷惑の意味を表す受身形は不適切で、感謝の意味を表す「てもらう」を使う必要があるが、学習者の回答では受身形を用いた誤答が多かった。「ほめられる」「プロポーズされる」など動詞や文脈によっては受身形でも話し手にとって嬉しいことを表す場合もあることが、それが受身形と「てもらう」の使い分けを難しくしていると思われる。

例9は、正しくは責任用法の使役で「てしまう」を伴う必要があるが、単に「させた」を使った誤答であり、「させられた」という使役受身を使う誤答も目立った。「申し訳ない」

という言葉などの文脈から正しく状況を読み取ることができていない可能性がある。

### ③ノダ文

〈誤用例〉

10. (先輩が本を読んでいる)

後輩：何を ご覧になっていますか／していますか／読んでいらっしゃいますか (→ご覧になっているんですか) ?

先輩：論文だよ。来週、発表なんだ。

[L14 文完成問題]

11. 先輩 (李)：最近、車を買ったんだ。

後輩：どこの車を お買いになりましたか／買われましたか (→買われたんですか)。

先輩 (李)：トヨタだよ。

[L15 文完成問題]

例10と例11は、ほぼ全ての学習者の回答で「のだ」が脱落している誤用例である。菊池 (2006) は、日本語教育では初級で「んです」を教えることが敬遠されがちで、その結果学習者が「んです」抜きの日本語に慣れてしまうことを指摘しているが、今回の文作り問題でも「のだ」抜きの日本語に慣れてしまった学習者の姿が垣間見えた。

例10の誤用に対しては、庵ほか (2000) の「前提」の概念をもとにフィードバックを行った。このフィードバックに対する学習者の反応は良好で、manaba上にも次のような肯定的なコメントが書き込まれた。

- ・先生の説明のおかげで、今は、「の(ん)だ」の使い方はもうわかりました。
- ・「何をご覧になっているんですか。」と聞いて、読んでいることは知っていますが、具体的に読んでいる内容について疑問したいから、「ん」を使うんですね。これから、「ん」の使い方について、注意しております。

しかし、次の課の文作り問題である例11でも同様に「のだ」の脱落が多く見られ、文法の理解から運用への移行の難しさがうかがわれる。

### ④テンス・アスペクト

〈誤用例〉

12. (先輩が本を読んでいる)

後輩：何を ご覧になりますか／読まれますか／お読みになりますか (→ご覧になっているんですか／読まれているんですか) ?

先輩：論文だよ。来週、発表なんだ。

[L14 文完成問題]

13. 試験が近いのに太郎は遊んでばかりいて、両親を 心配させる／怒らせる (→心配させている／怒らせた)。 【L22 文完成問題】

テンス・アスペクトに関する誤用はJ510中級前期レベルの問題でも前述したが、中級中期レベルでも例12、例13のように、「ている」の脱落が多く見られた。例12は典型的な動作の進行の用法であり、空欄の直前に「先輩が本を読んでいる」と示されているにもかかわらず、「ている」を書けない学習者が多くいた。

また、例13は「試験が近いのに」という文脈があるので、個別的な事柄を表しており、「ている」または「た」を用いる必要がある。「ている」の習得には時間がかかる(市川2010)と言われているが、今回の文完成問題からは、中級学習者が場面に応じた言語使用で動作の進行や個別的な事柄を表す「ている」を書き落としやすいことが分かった。

### ⑤自動詞・他動詞

〈誤用例〉

14. 山田：どうしよう、斎藤さん。先輩に借りた本 を汚れてしまいました／をなくなつた／をやぶれてしまいました (→が汚れてしまいました／がなくなっちゃった／がやぶれてしまいました)。  
斎藤：あーあ、はやく謝った方がよい。 【L20 文完成問題】
15. レポートを 終わったら (→終えたら)、カラオケに行きたい。 【L17 文完成問題】
16. 涙 が流れ／があふれ／が出／がこぼれ (→を流し／をこぼし) ながら、観客はその映画を見た。 【L19 文完成問題】

自動詞・他動詞の使い分けについて、まず例14や例15のように格助詞と自動詞・他動詞との対応ができていない回答が多く見られた。このような誤用の原因として、まず自動詞・他動詞のペアを間違えて覚えている可能性が考えられる。この点について、市川(2010)は自動詞・他動詞をペアではなく、状況や場面、会話の中で文単位で覚える練習をした方がよいと述べている。また、このような文単位で覚えるというストラテジーとともに、格助詞など形式への注目を促すことも中級レベルの段階では重要であろう。

例16は「ながら」節と主節の主語が同一であることから、「涙を流しながら」のように他動詞を使用しなければならない問題である。自動詞・他動詞を正しく選択するためには、自動詞・他動詞の選択に意味や格助詞だけでなく、このような複文における主語の統一などが関わっていることを理解する必要がある。

### 3.3 中級後期J710の場合

J710中級後期レベルでは許ほか(2013)によって開発された自作教材を主教材として使用している。J510およびJ610で学んだ文法項目に基づいて機能語を中心に運用力をアップさせるための活動を盛り込んでいる。

J710でもJ510およびJ610と同様に、manabaを利用してドリルと文完成問題の練習を行った。助詞や語彙選択の間違ひも見られたが、頻度としてJ510、J610より誤用の数は減っており、学習の進むにつれ、既習項目の産出力は上がっていることが分かった。

しかし、日本語の表現における発想や基本的な文構造に関する誤用も見られており、様々な問題が混在していることが分かった。本節では終助詞の使用から見られる意志表現の問題点、動作主の不在の問題点を取り上げる。

#### ①意志表現

〈誤用例〉

1. A: 最近、アルバイトが忙しくて勉強ができないんだよね。

アルバイト、やめる／今日からちゃんと図書館に行くかな                【L7 終助詞】

2. 車を買う／旅行する／洋服を買う つもりでこのお金は貯金しておこう。

  【L12 意志を表す表現】

第7課の終助詞を扱う課で「かな」を取り上げ、意向形を使って自分がしたいと思っていることをやわらかく伝えると説明している。例1は「かな」を使って、自分の意志を表す表現であるにも関わらず、意向形を使わず「やめるかな／行くかな」のような普通形を使った誤用例である。主節の文末に終助詞「かな」を使って、話し手の意志を表明する場合は意向形を使わなければならない。「る」形を使った場合は、はっきりわからない第三者の動作を推測する表現になり、行為を行う動作主が異なってくる。終助詞「かな」の接続する形と、その使い分けを理解していないために生じる例1のような誤用が多数見られた。

また、例2で見られるような話し手の意志と反する事実を表す意志表現も理解されにくく、文脈に合わない不自然な表現が多く見られた。例2は「買った／旅行したつもりで」のように反事実を表す文脈であるが、「買うつもり／旅行するつもり」の非過去形を使っているため、今後の予定を表す表現になっている。文脈からはやや不自然な文になっており、表現しようとする事柄が異なっている。話し手の意志を表す表現と、結果として生じた事実を表す表現の違いを認識していないことが原因であると思われる。

## ②動作主の不在

〈誤用例〉

3. A : 明日の授業を休む／休講にすること、知っていますか。

B : ええ、先週、鈴木さんから聞きました。

【L1 文完成問題】

4. この仕事は大変ですが、やめる／やらない わけがない。

【L3 文完成問題】

学習者の誤用の中には、主語や動作主が明示されず、文脈の前後関係からも推測しにくい表現が多く見られるが、例3がそのような誤用例である。前者の誤用の原因は、「○○さんが明日の授業を休むこと」という意味を表したかったが、主語が明示されていないことにある。そのため、話し手である「私」が動作主として理解されるが、学生同士の会話では不自然な表現になる。このような、主語や動作主が明示されていないか、推測しにくいことから文意が伝わらず、分かりにくくなる例が多く見られた。また、例3の後者の誤用は「授業が休講になった」のように結果として表現しようとしたが、「する」動詞を使っているため、主語に立つ動作主の意志表現として理解されてしまう。動作主の明示と「する」と「なる」動詞の選択に関する理解が不十分であることが原因として考えられる。

例4も同様に、仕事をやめる動作主が明示されない場合、話し手が動作主として理解されるが、文末に「わけがない」の判断を示す表現が使われているため、前件と矛盾が生じ、誤用につながったものである。第3者の動作や行為に対する話し手の判断を表す表現を使う場合、動作主である第3者を明示する必要があることを理解しなければならない。

## 4. manabaの利用に関する課題

学期終了時に行ったアンケートに、manabaに対する自由記述欄を設けた。その結果、様々な意見が寄せられたが、以下のように「肯定的意見」「システムに対する抵抗感」「要望」に分類して、以下に記す。

## (1) 肯定的意見

いいシステムだと思います。教科書以外にも復習して日本語のレベルアップに役に立つと思います

いい予習・復習のやり方だと思います。

とてもいいです。日本語の勉強に役に立てると思います。

とても良かったと思いました。例えば、授業前予習時間がなくても、manabaの問題ちゃんとやって、授業で教えていただいたことが大体理解できて、とても助かったと思いました。

manabaがあるから直接与に先生とコミュニケーションが出来るから非常に面白くて役に立った

一番良い点は宿題を早く提出ことができ、回答がすぐに出ることです。良くない点はあまり見つけられませんでした。
宿題が手で書くよりとても便利だと思います。時間もそんなにかからないからです。
先生のコメントが見られるのが素敵な点だと思います。
提出日を決まなくて、便利で、いい勉強方法だと思います。
私は授業の前半はmanabaで予習、復習などを行いました。授業の後半は忙しくて、あまりしませんでした。いま振り返れば、前半はmanabaで予習、復習をしたら、知識の理解がもっと深まりました。

(2) システムに対する抵抗感

コンピュータを使うのが必要なので、不便だと思う。時々忙しく、やらない。
まず、「まなば」というソフトのデザインから言うと、全然よくないと思うけど、シンプルではなく。 また、「まなば」は教室の授業を補助するこそ、役割はあまり大きくないと思う。 いい方法があると思うけど、教室の授業内容は60%かんせいしかなく、ほかのは「まなば」のおかげで、勉強すると思う。
やはりこのシステムは役に立たないことは絶対ないが、一つの問題があると思う。 このシステムは必ず授業の後パソコンを使って、ログインして使うのだ。しかし多くの人が今までこういうインターネットで宿題をする習慣がないから、いつも忘れてしまう。いつも授業でこのシステムの宿題をやってない人がたくさんいるが、みんなやりたくないのではないと思う。ほとんどの人が、まだこのやり方が慣れていないからだと思う。でもこのシステムは本当に素晴らしいと思う。日本語の勉強するには、真剣にやれば、役に立つに違いない。

(3) 要望

一応良かったと思う。しかし、他のコメントがあまりない。
選択肢の問題の答えのところに、コメントも付いて欲しいです。
多分予習問題の答えが一つだけではないので、採点結果は間違ふこともあります
文作りは出したら、正解がもらえば、先生からもってるものより好きです
予習と復習をするとき、manabaを使いながら、知識点を覚えることができる。manabaで練習するとき、何回やっても、間違いがあれば、解答がないということをちょっと困っている。

manabaのシステムに問題や使い方に関する要望もあるが、eラーニングの活用に関しては概ね高い評価が得られた。教室での学習だけではなく、自律学習を促すうえでも有効であろうと思われる。これらの意見を参考に今後はmanabaの使い方を改善していきたいと考えている。

本稿では中級文法クラスにおけるeラーニングとしてmanabaの活用法および受講者の評



価を紹介し、学生の文完成問題に見られる誤用について分析を行った。manabaの活用に関する学生の評価は高く、文法項目の学習に役に立ったというアンケートの結果が得られたが、実際の学習効果については検証されていない。コミュニケーション重視の文法教育およびMoodleの活用の有効性については許ほか（2013）で検証されているが、manabaの有効性についても今後検証する必要があるだろう。それについては今後の課題としたい。

## 謝辞

アンケートにご協力いただいた学習者の皆様に感謝申し上げます。

## 注

1. アンケート調査はクラスで調査の目的や個人情報の保護について説明し、実践報告で利用することの承諾を得てmanaba上で実施した。希望者にのみmanaba上のものと同じ内容のアンケートを紙で配布した。ただし、回答者（受講生）からの回答の利用承諾は書面で行った。
2. manabaをほとんどやらなかったと答えた学生は8名いるが、その理由について「忙しくて時間がとれなかった」と記述していた。
3. 今回のアンケート調査に回答が得られなかった学生の中にJ710の学生も含まれており、その中にはmanabaを利用していない学生もいる。したがって、J710の受講者全員がmanabaを利用したわけではないが、J710の受講者の中で回答が得られた学生は全員manabaを利用していた。
4. 「スポーツ」の誤植。学生の回答をそのまま転載したものである。
5. テンス・アスペクトに関する用語は工藤（1989）に従う。
6. 動詞の分類基準を教科書の『レベルアップ日本語文法』（p.82）に従う。

## 参考文献

- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 市川保子（編）（2010）『日本語誤用辞典—外国人学習者の誤用から学ぶ日本語の意味用法と指導のポイント—』スリーエーネットワーク
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵（1998）『敬語表現』大修館書店。
- 菊池康人（2006）「受難の「んです」を救えるか」『言語』35巻 12月号：6-7
- 工藤真由美（1989）「現代日本語の従属文のテンスとアスペクト」『横浜国立大学人文紀要 第2類語学・文学』36号：1-24
- 鈴木秀明・榎陽子・許明子（2012）「中級レベル文法クラスの実践報告」『筑波大学留学生

センター日本語教育論集』27号：153-170

鶴町佳子・許明子 (2008) 「多人数クラスにおける文法授業実践報告」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』23号：41-51

許明子・鶴町佳子 (2009) 「日本語学習者の中級レベル観」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』24号：19-36

許明子・宮崎恵子 (2013) 『レベルアップ日本語文法 中級』くろしお出版

許明子・宮崎恵子・青木幸子 (2013) 「学習者のための中級日本語教育文法お在り方—中級文法クラスのアンケート調査とアチーブメントテストの結果の比較を通して—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』28号：85-104

許明子・宮崎恵子・青木幸子・永井絢子 (2013) 『中上級実用日本語文法』筑波大学留学生センター

宮崎恵子・二瓶知子・許明子 (2012) 「中級日本語文法教材『実用日本語文法』開発」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』27号：137-152

資料1 アンケートの回答入力ページ

筑波大学  
University of Tsukuba

※早期利用申請期間中 2014-09-18 (Thu)  
古川 雅子 | 設定 | ログアウト

my page 講座 コース 戻る モニター 出席カード English

yx14027 J510 中級前期日本語文法 コース設定 担当教員: 許明子, 中山 健... 2014

小テスト アンケート レポート プロジェクト 成績 掲示板 コースコンテンツ

回答入力 表示モード 教員 学生

入力 確認 完了

manabaに関するアンケート

設問数 22 経過時間 00:00:29

Q1. manabaをやりましたか。

1.  やった → Q2.へ  
2.  ときどきやった → Q2.へ  
3.  ほとんどやらなかった → Q5.へ

Q2. <manabaをやった/ときどきやった人>

Q2-1. 次のものは自分の日本語力を高くするのに役に立ちましたか。

① 予習の問題  
ひよか 評価  
-

② 復習 文完成問題 (宿題)  
評価  
-

③ 先生からのコメント